成田地区社協だより

令和４年３月発行　　第50号
編集発行：成田地区社会福祉協議会　広報部会
電話：成田市社会福祉協議会（代）0476-27-7755

まず隣　「和」と「輪」でつなぐ　愛の手を

地域を見守る移動スーパー

第2層生活支援コーディネーター　土屋　美智子

成田地区では、㈱ナリタヤのとくし丸、㈱カスミの２社による移動スーパーが始まっています。お買い物に来てくださる地域の方々の見守りを兼ねており、地区内25カ所を巡回し活躍しています。

今回、㈱カスミ・ビジネス変革本部の堀越健一さんとドライバーの倉浪さんにインタビューをしました。

堀越さんは、少子高齢化社会に伴い、買い物に不便を感じられている方も年を追うごとに増えてきている中、㈱カスミは、日常のお買い物にご不便を感じている方々へのお買い物支援の取組として、「移動スーパー」の運行を開始しました。当社の移動スーパーが地域の皆様に、お買い物を身近に、便利に、楽しいと感じていただける場の提供と、笑顔と元気をお届けできるよう日々努めて参りますので、是非、カスミ移動スーパーをご利用ください、と言っていました。

又、倉浪さんは、お客様から「来てくれて助かる」「欲しかった商品を用意してくれてありがとう」「おすすめ商品が美味しかった」等、たくさんの「感謝」の言葉をいただきました。お帰りの際には「この後も頑張って」「気を付けて行ってきてね」と励ましの言葉をいただきました。毎週のようにお越しくださって楽しそうにお買い物をされているお姿を拝見すると、移動スーパーを必要として下さっているのだと感動します。また、販売スペースに限りがある為、商品の種類や数を増やすことが難しく、売り切れを出してしまいお客様がお買い上げ出来なかったり、商品のサイズ等の問題で移動スーパーでは取り扱えない商品があったり、ご要望にお応えできない時には申し訳なく感じます。今後ともお客様がご利用しやすいお店づくりにより一層努めてまいります。引き続きカスミ移動スーパーをよろしくお願い申し上げます、との事でした。

『ひとり』で暮らしていても『独り』と感じる事のないご近所、家族や友人とのつながりが今改めて大切だと感じます。様々な課題と向き合いながら、皆が暮らしやすい地域をつくっていきたいです。

☆花言葉は、「忍耐」

藪茗荷（やぶみょうが）との出会い！

広報部　阿部　文朗

「藪茗荷」に出会ったのは、今から八年ほど前、ある一人暮らしの高齢者のお宅に安否確認を兼ねて福祉サービスのひとつである「くだもの」を届けに訪問した初夏のことです。うす暗いフェンス際から可憐な白い小花が、そよ風に揺れていました。

成田市の福祉サービスの委託を受けた成田地区社会福祉協議会では、「独居高齢者ふれあい訪問等サービス」として希望する一人暮らしの65歳以上の高齢者の方に月に一度、季節の「くだもの」を無料で自宅に届ける活動を行っており、この「くだもの」配付を地域担当の民生委員が活動協力しています。

民生委員は、担当区域にお住いの方に、悩みや相談・支援の必要がないか、安心安全な生活環境が保たれているか、日常的に安否確認、見守り活動を行っており、「くだもの」配付活動の時も毎回、対象高齢者の安否確認、見守り活動を行っています。

緑一杯の中を渡ってくる清々しい風を受けながら安否確認を兼ねて「くだもの」届けに訪問した先の高齢者の方から「それは、『藪茗荷』と言います。気に入ったら、根元から抜いて持ち帰りなさい。」と言われたのですが、環境が良くて根付き、花を咲かせたのだと思い、「ここで精いっぱい花を咲かせなさい。」と花を愛（め）で、抜くのを止めました。

帰り際に、高齢者の方が「茗荷の花言葉は、ジメジメしたうす暗い場所にもかかわらず、美しい花を咲かせることから「忍耐」だそうですよ。」と教えてくれました。

「人は、生きている間、耐え忍ぶことが多いと思いますが、大輪でなくても何時か「藪茗荷」の様に小さいながらも美しい花を咲かせたいものですね。」と応じると、「この年で花を咲かせたら、狂い咲きですよ。」と笑っていました。

野菜図鑑で調べてみると「藪茗荷」は、ツユクサ科の多年草で、茎の上部に白い小花を数段付け、葉が「茗荷」に似ており、初夏に花を付け、実は熟すと青藍色になり、似た名前の「茗荷」と「花茗荷」は、ショウガ科で「茗荷」は食用、「花茗荷」は観賞用とのことです。

その日から二十日ほど後のことです。わが家の小さな裏庭のアオキの根本に「藪茗荷」の可憐な白い花が咲いているのに気づき、「くだもの」届けの折りに見た高齢者宅のフェンス際に咲いていた「藪茗荷」が妙に懐かしく思えました。あの時、「藪茗荷」を愛（め）で、抜かずに来たので、我が家に「藪茗荷」が花を咲かせに来てくれたのかと勝手に思い、さわやかな嬉しさがこみ上げてきました。今も毎年初夏になると「藪茗荷」は、忘れずに家に可憐な白い小花を咲かせています。

（了）

藪茗荷の花

編集部【注】

誠に悲しく、残念な事ですが、本文の筆者である阿部文朗様は、本年一月八日に急逝されました。昨年末に広報部会として正副部会長が阿部様ご自宅を訪問しこの文章を戴いた次第ですが「肺の調子が悪くて」と仰っていましたが、まさかこんなに早く…とは信じられません。

大先輩の阿部様のご冥福を祈って合掌。